

# 女性情報シソーラスと参照機能を組み込んだ データベース検索システムの開発

Development of a Women's Information Thesaurus  
and the Database Search Engine in which Referring to the Thesaurus is Possible

\*1                      \*2                      \*3                      \*4                      \*5

田中和子／加藤直樹／安達一寿／江口愛子／森未知

国立女性教育会館（以下会館）では、2000年から2002年にかけて、女性教育に関するナショナルセンターとして、男女共同参画社会の実現に向け、女性情報関連語の新しい概念構造を体系化し、それに基づいてシソーラスを開発するための調査研究を行った。そこでは、女性情報の新たな段階に対応するシソーラスの枠組み・内容の見直しとともに、情報通信ネットワークを活用した継続的な改訂作業や既存データベースにおけるシソーラスの活用機能を検討し、シソーラス編集システム及びデータベース検索のためのシソーラス参照機能を開発した。その結果、ネットワークシステム上でのシソーラス共有が可能となり関係機関が保有する個別データベースシステムの組織化が検討可能になった。

<キーワード>シソーラス，データベース，女性  
情報，情報検索システム

## 1. シソーラス開発のこれまでの経緯と本研究の 目的

会館は、設立の構想の段階から、女性に関する情報

の収集・整理・提供を行うことを会館の根幹的機能の一つとして位置づけており、女性及び家族に関する国内外の情報センターとしての役割を果たしてきた。開館から25年を経過し、蓄積されてきた女性情報は様々にデータベース化され、1999年からは、インターネットに接続できる環境であれば、誰でも利用することが可能となっている。更に2000年3月には、関連機関のホームページやデータベースを横断検索するシステム「WinetCASS（ウィネットキャス）」を開発し、国内外の関連機関との連携が進んできている。

これらの情報を活用するために、情報検索を迅速かつ適切に行うには、専門分野の用語を整理し体系化した用語集（シソーラス）が有効である。このことは1977年3月国立婦人教育会館（仮称）に関する懇談会の「国立婦人教育会館（仮称）の事業運営について」において示され、会館では、1984年度より「女性」及び「家族」の領域を対象とする「シソーラス」の研究開発を進めてきた。その成果として、これまでに、『婦人教育シソーラス』（昭和61年度版（1982年）、第2版（1990年））を刊行したが、それらは会館の所有する各種情報をデータベース化する際に使用されるキーワード付与及び情報検索に使用され、関連情報を整理する

論文受理日：2003年3月20日

\*1 TANAKA, Kazuko: 國學院大學（〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28）

\*2 KATO, Naoki: 岐阜大学（〒501-1193 岐阜市柳戸1-1）

\*3 ADACHI, Kazuhisa: 十文字学園女子大学（〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28）

\*4 EGUCHI, Aiko: 国立女性教育会館（〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地）

\*5 MORI, Michi: 国立女性教育会館（〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地）

際の枠組みとして機能してきた。

しかしその後、第4回世界女性会議、国連特別総会「女性2000年会議」等の国際的動向並びに「男女共同参画社会基本法の制定」等の国内的動向と相俟って、女性学・ジェンダー関連の研究・教育の進展、地域における男女共同参画をめぐる取組の多様化等による情報量の増大、関連分野の多様化、新しい用語の出現等が進行したため、それに対応する新しいシソーラスが求められるようになった。

そこで会館は、会館及び全国の女性センター等女性関連施設の情報資源を有効に活用できるよう、女性教育関連用語における新しい概念構造を体系化し、インターネット上で提供する情報検索システムにおける「検索用語集（シソーラス）」の新しいあり方とその可能性を探るために、本研究を実施した。

## 2. 海外の女性関連シソーラスの動向と比較

『女性情報シソーラス』の目的・性格・カテゴリー・語数等を、1. でふれた1990年代から新世紀初頭にかけての女性情報をめぐる新たな展開に対応する形で設定するため、『婦人教育シソーラス 第2版』中の各用語の使用頻度を数え、問題点のあらい出しをはかるとともに、1990年代以降海外で出版された女性関連シソーラス、およびそれらシソーラスがしばしば参考にしたA Women's Thesaurus (1987) との比較検討を行った。その主なもののタイトル、出版地、出版年、カテゴリー数、使用言語、語数、目的・特徴は、次の通りである。『オランダ女性シソーラス』と『ヨーロッパ女性シソーラス』に関しては、現地での聴取り調査も行った。

### (1) 『女性シソーラス』A Women's Thesaurus<sup>[1]</sup>

米国、1987、11カテゴリー、英語、5528語：標準化された、厳密な索引語の提供により、より効率的な女性情報の検索をめざすとともに、索引語を通して、女性の生き方、考え方を提示することが目的である。

そのため、固定的性役割を示唆することばを明示的に排除する。開発所要時間5年。1986年にテスト版発行。各方面からの助言をもとに、収録語、階層化、スコープノート等の適否を再検討。後発の様々なシソーラスが、これを参考にしている。

### (2) 『カナダフェミニストシソーラス』

#### The Canadian Feminist Thesaurus <sup>[2]</sup>

カナダ、1990、カテゴリー分類はない。英語・仏語。各々約3000語：カナダの女性・女性運動・女性学についての資料を探し、利用に供するための標準化された語彙集である。バイリンガル。カナダフェミニズムの多様性を反映したもので、開発経過時間5年である。事前アンケート調査および使用テスト実施している。米国の『女性シソーラス』が最も重要な参照文献だが、カナダフェミニズムの独自性を反映するために、固有のものを開発した。

### (3) 『婦人教育シソーラス 第2版』<sup>[3][4]</sup>

日本、1990、9カテゴリー、日本語、5883語（カテゴリーへの重複収録含む）：国立婦人教育会館婦人教育情報センター（当時）が所蔵する図書、資料等を検索するための統制語彙集として開発した。「女性」及び「家族」の領域を対象とし、主題検索には、伝統的に件名表や分類番号が使用されるが、新しい学問分野である女性学や新たに掘り起こされた女性問題に適切にフィットするものは十分でないという現実に対処しようとしたものである。開発所要時間5年で、1987年に『婦人教育シソーラス 昭和61年度版』刊行した。女性関連施設や関連分野の研究者に配布し、矛盾点の修正、新語の追加、スコープノートの付与を経て、第2版刊行した。

### (4) 『開発と女性シソーラス』

#### Women in Development Thesaurus <sup>[5]</sup>

インドネシア、1991、14カテゴリー、英語、531語：「アセアン地域の女性問題に関する情報を蓄積・

## 田中・加藤・安達・江口・森：女性情報シソーラスと参照機能を組み込んだデータベース検索システムの開発

検索する際、各国が共通して使える標準化されたキーワード集が必要との問題意識から、アセアン地域の女性情報クリアリングハウスが協力して、女性情報（特に女性と開発）の収集・検索・提供をアセアン地域全体として組織的に行うために開発した。開発所要時間6年で、1986年に予備版、1987年に暫定版を発行した。

## (5) 『オランダ女性シソーラス』

Vrouwenthesaurus [6]

オランダ、1992、20 カテゴリー、オランダ語、約2500語：ヨーロッパ最大の女性センターIIAV（国際女性運動アーカイヴ情報センター）が1990年刊行したものに追録を入れ、1992年に刊行した。1994年にも追録作成した。当初、米国の『女性シソーラス』のオランダ語訳を使う構想もあったが、文化的背景の違いを考慮し、オランダ独自のものを開発する。IIAVの他、オランダの6つの地域女性センターすべてとベルギーの女性センターで索引づけと検索に使用している。更新方法は、各センターが変更の必要な箇所を書式によりIIAVに知らせ、IIAVのシソーラス担当研究員が変更を決定し、判断できない用語については、約4ヶ月ごとに開かれる女性センター会議で、直接話し合っただけで決定している。有色・移民・難民女性の視点からの見直しも、重要な作業で、多くの女性センターで使われることで、問題点が明らかとなり、不断の更新も可能である。

## (6) 『アローシソーラス』 ARROW Thesaurus [7]

マレーシア、1997、26 カテゴリー、英語、531語：アジア・太平洋女性資料研究センター作成の女性と健康に関する用語集である。

## (7) 『ヨーロッパ女性シソーラス』

European Women's Thesaurus [8]

オランダ、1998、20 カテゴリー、2087語（各カテゴリーへの重複収録を含めると2816）：女性の地位と女性学に関する情報に主題別索引をつけて検索できるよ

うにする。共通の索引方法や検索方法が定まっていなことが、ヨーロッパの女性関係図書館、資料センター間の相互協力の妨げになっていたため、EUで共通に利用できる用語集として開発された。『オランダ女性シソーラス』の翻訳をもとに、ヨーロッパ女性基礎用語集を作成した。その後各種の決まりごとを設定して内容が固められ、ヨーロッパ女性シソーラス刊行。各国の事情に合ったものへと発展させることが可能である。ヨーロッパ各国におけるEWTの共同利用・女性情報の横断検索の可能性、『女性情報シソーラス』開発にあたっての最も重要な参考文献である。

## (8) 『アイシスディスクリプタ集』

The Isis Book of Descriptors [9]

フィリピン、2000、28 カテゴリー、英語、655（総収録語数707）：当初は、アイシス女性資料センター内の資料に索引付けするためのものであったが、現在では、他の女性資料センターや各種資料センターでも用いられている。なおこれをもとに、現在アジア女性情報交流（AWORC）が多言語シソーラスを開発中である。

これらのシソーラスを比較検討してみると、次のいくつかの点を確認できる。

- 1) 女性シソーラスの必要性についての認識の高まり
  - ① 新しい分野であり学際的性格を持つ女性学・女性問題・女性運動に関する文献・資料・情報は既存の分類システムや用語によっては、適切に索引づけできない。
  - ② 女性運動や女性のネットワーキングをすすめるためには、女性情報を共有することが必要。そのためには共通の索引・検索システムが必要。
- 2) 開発時間の長さ
 

主要なシソーラスの開発には、カテゴリーや用語の収集・決定のための広範な資料文献の渉猟・テスト版の作成、関連機関・団体・個人への聴取などを含め、長い時間が費やされている。
- 3) 性差別用語や男性中心の用語法（例えば女性冠詞）

の排除

#### 4) カテゴリーの増加・細分化傾向

カテゴリーをどう定めるかは、シソーラスの主題領域を体系化し、それに沿って用語を収集・階層化する上で重要な意味を持つ。海外シソーラスの比較検討では、最近出版されたシソーラスほどカテゴリー数が多くなる傾向がみられる。

#### 5) 用語数の減少傾向

あまり重いものは、使いにくいこともあってか、用語は厳選、少数化の傾向にある。

#### 6) 女性のおかれた状況の同時代記録としての役割。

シソーラスのカテゴリー分けの仕方、用語内容、各カテゴリーに配置された用語数多少は、そのシソーラスが作られた時代・地域の女性のあり方や女性学の進展状況を映し出す。したがって、それらの変化は、女性の状況の変化や、女性学の新たな段階への移行を指し示す。

4)、5)の趨勢をふまえ、『女性情報シソーラス』では、女性情報の構造が見えやすく、かといってあまり複雑になり過ぎないようにとの観点から、第2版では9だったカテゴリーを再編し14カテゴリーとし、また用語数は約6000語から約4400語へと削減。3)は、『婦人教育シソーラス』当時からの方針である。また、とりわけ、『ヨーロッパ女性シソーラス』とその基礎となった『オランダ女性シソーラス』の開発経緯、カテゴリー設定、用語の内容、使用状況、更新方法等からは、『女性情報シソーラス』のカテゴリー、用語数、用語内容、他の女性関連施設等との共同利用等を考える上で、多くの示唆を得た。

### 3. 改訂方針と成果

『女性情報シソーラス』は、下記2点を目的として開発した。

① 会館及び各地の女性関連施設等の女性関連情報データベースを効率的に検索するための「共通キーワード」の整理と体系化

② 女性に関連する問題全般及び女性学・ジェンダー研究分野における「カテゴリー及び用語」の整理と体系化

上記の目的を達成するため、以下の方針にしたがって改訂作業を進め、成果を得た。

#### (1) 用語の選択と階層化

『婦人教育シソーラス 第2版』は約6000語を収録していたが、キーワードの付与に使われた用語を分析したところ、あまり使われなかったものも多かった。このことから、新しいシソーラスは用語数を絞り、専門性の高すぎる用語の収録を見送ることとし、新たに加えたものも含め、索引語・同義語を合わせて約4400語を収録した。

用語を選択するに当たっては、このシソーラスを各種データベースへ組み込むことも前提とした。留意した点は下記の通りである。

① 「婦人」「女子」は、意味的に問題がない場合、基本的に「女性」を用いることとした。

② 女性冠詞のついた用語は、原則として索引語には用いないこととした。

例) 「女性研究者」は「研究者」, 「女性教員」は「教員」の同義語とする。

③ 差別ととらえられる語は同義語としても収録しないこととした。

④ 一つの用語の関連語は、40までとした。

⑤ 英単語の連語の表記については、中黒点を入れることを基本とした。これは、データベースにシソーラス検索機能を組み込む際に、自動的に中黒点を入れない形を同時検索するような設定が可能となったためである。

例) 「ジェンダー・バイアス」で検索した場合、「ジェンダー・バイアス」と「ジェンダーバイアス」の両方の語を含むものを検索してくる。

⑥ 略語あるいは漢字一文字の用語は、部分一致で検索してくる場合に、意図しない検索結果となる可能性が高いため、原則として採録しなかった。

## 田中・加藤・安達・江口・森：女性情報シソーラスと参照機能を組み込んだデータベース検索システムの開発

例) 「スト」(ストライキの略を意図して検索) →  
 ストレス, フェミニスト等を検索してくる。  
 「本」(図書と同義語を意図して検索) →日本,  
 本質等を検索してくる。

## (2) カテゴリーの増加

『婦人教育シソーラス 第2版』は9カテゴリーであったが、女性情報シソーラスでは前述したように、14のカテゴリーを設定した。各カテゴリー毎の主な内容は表1の通りである。又参考として『婦人教育シソーラス 第2版』の内容などを表2に示す。なお、「14一般」には共通して用いることのできる語が属している。またキーワード付与の際、索引語だけでは不十分な場合には、内容をより明確に表現するためのアイデンティファイアを用いることができる。

## (3) 共同利用の促進

今回のシソーラスは、会館一館で使うシソーラスではなく、全国の女性関連施設等が共通に使える「検索用

語集モデル」であることを目指した。詳しくは4.以降で述べるが、シソーラスそのものをデータベース化することにより、ネットワーク経由で共有することを可能にした点は、大きな成果と考えられる。これによりWeb上でシソーラスの編集・改訂作業ができるようになったばかりでなく、各女性関連施設が所有するデータベース間の横断検索を支援することも可能となる。

## (4) 固定型シソーラスから更新型シソーラスへ

従来の印刷体での提供から、電子媒体での提供となり、また前述のようにWeb上で改訂可能なシステムを開発したことにより、用語の変化に柔軟に対応することが可能となった。

『女性情報シソーラス』が対象とする分野は、研究・実践・学習が相互に結びつき発展していく、広範かつ変化の多い領域である。より利用価値を高めるため、用語の見直しは恒常的に行っていく予定である。そのために、保守管理のワーキンググループを組織し、年1回程度の頻度での更新を予定している。更新の際

表1 「女性情報シソーラス」のカテゴリー、主な内容、収録語数

No.	カテゴリー	主な内容	収録語数	
			索引語	同義語
1	思想・理論・運動	フェミニズム, 女性解放思想, 哲学, 女性学, ジェンダー, 性差, 性差別, 性役割, 男性学, 女性問題, 女性運動	149	78
2	歴史・民俗・宗教	歴史, 女性史, 民俗, 人類学, 宗教	93	31
3	教育・研究	教育, 学習活動, 学校教育, 社会教育, 家庭教育, 女性教育, 青少年教育, 生涯学習, 学術研究	365	139
4	性・心・からだ・健康	セクシュアリティ, 性行動, 性の商品化, 買春, 性暴力, 生殖, 妊娠, 出産, 心理, 発達, カウンセリング, 健康, 医療, 保健衛生, リプロダクティブヘルスライツ	363	181
5	政治・政策・法律	政治, 選挙, 政策, 女性政策, 男女共同参画, ジェンダーの主流化, 行政, 国家, 国際関係, 外交, 戦争, 平和, 条約, 権利, 人権, 民族, 法律, 裁判	352	139
6	社会	社会体制, 社会変動, 社会関係, 社会集団, 社会問題, 社会運動, 社会活動, 女性団体, ネットワーキング, ボランティア, 地域社会, 都市, 農村, 少子・高齢化, 人口問題, 貧困, 犯罪	327	123
7	労働・社会保障	労働, 無償労働, 労働者, 雇用平等, 労働条件, 職業, 社会保障, 社会保険, 社会福祉, 保育, 介護, 年金	424	295
8	経済	経済開発, 開発援助, 産業, 企業, 労働力, 税, 所得, 金融	191	61
9	世帯・家族	家族制度, 家族関係, 世帯構成, 単身者, 結婚, 離婚, 家事, 家庭, 育児, ドメスティック・バイオレンス	224	108
10	くらし・環境	生活, ライフスタイル, 家庭経営, 消費者問題, 環境問題	186	44
11	科学・技術	科学, 生命科学, バイオテクノロジー, 生殖技術	32	21
12	ことば・情報・メディア	言語, コミュニケーション, 情報, 情報通信技術, マスメディア, ミニメディア, 出版, 報道, メディア・リテラシー	134	53
13	文化・芸術・スポーツ	表現, 表現の自由, 芸術, 芸能, 文学, ファッション, スポーツ, 余暇, 遊び, レクリエーション	156	52
14	一般	*上記カテゴリーに共通して使用できる語。 例) 影響, 活動, 参加, 対策, 多様性, 評価, 問題	71	8
計			3067	1333

(2002.11 現在。2つ以上のカテゴリーに重複して収録されている用語もある。)

表2 『婦人教育シソーラス 第2版』のカテゴリー、主な内容、収録語数

No.	カテゴリー	主な内容	収録語数
I	思想・理論・歴史・運動	女性解放思想、フェミニズム理論、女性学、ジェンダー、女性論、母性論、婦人問題、婦人運動、歴史、宗教	224
II	性・からだ・心	性規範、性行動、性愛、性差、性役割、性差別、性解放、性の商品化、買売春、性暴力、中絶、生殖技術、妊娠、避妊、出産、生理、病気、心、医療、健康、医学、保健衛生	556
III	家族・家庭	家族制度、家族形態、家族関係、家族構成、親族、家族周期、高齢化問題、家族問題、結婚、婚姻形態、離婚、相続、家庭、家庭経営、主婦、家事、育児、世帯、生活、住生活、住宅、食生活、食品、衣生活	664
IV	社会・福祉	社会、社会変動、社会思想、社会体制、世代、階級、社会集団、社会活動、婦人団体、社会運動、社会問題、環境問題、社会病理、高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域、都市、農村、地域活動、民俗、習俗、福祉、保育、年金	1032
V	労働・経済・産業	労働、労働者、労働力、就業、雇用、就労形態、人事、教育訓練、退職、労働条件、賃金、母性保護、職業病、労働組合、職種、経済成長、経済変動、国際経済、貿易、生産、商品、流通、物産、消費、所得、金融、税、企業、産業、科学技術、人口	1249
VI	政治・法律	政治、政治思想、政治体制、政治団体、政治運動、政治家、選挙、政策、行政、財政、外交、平和、戦争、国際関係、人権、民族、人種、差別、法律、裁判	634
VII	教育・研究	教育、教育理念、教育政策、生涯教育、学習、生涯学習、発達、発達理論、発達課題、家庭教育、発育、育児、しつけ、家庭教育の学習、学校教育、教科、教科教育、教員、女子教育、教育評価、教育問題、社会教育、社会教育行政、青少年教育、成人教育、婦人教育、学術研究	874
VIII	文化・芸術・スポーツ	文化、コミュニケーション、芸術、芸能、言語、文学、ファッション、スポーツ、余暇	540
IX	その他	意識、運動、解決、開発、概念、改良、価値、関係、勧告、管理、機会、機能、義務、給付、協力、訓練、経験、経歴、現状、構造、拘束、行動、自然、事業、思想	110
計			5883

の視点としては、関連諸機関からの要望の集約、会館データベース検索のキーワードとして利用された用語の分析、文献索引語付与時に生じる新しい用語の収集などである。

#### 4. シソーラスの共同改訂のシステム開発

##### (1) 開発の趣旨

シソーラスの整備作業は多くの時間と労力を必要とするものであるが、現在のネットワーク及びデータベース技術の活用により、シソーラスの編集・維持・利用に関して次のような効果が期待できる。

- ・時代の変化に柔軟に対応する用語管理
- ・関連機関の使用索引語の共有
- ・関連機関のデータベースの横断検索

すなわち、関連機関の所有する情報整理に基本的な枠組みを提供し、各機関で個別に管理されてきた情報を有機的に連携させることで情報量を大幅に増加させ、利用者へのサービスを飛躍的に向上させることが可能となる。また、このサービスを通して関連機関の活動

そのものの連携を強化することが期待される。このためにネットワーク上での協同作業を可能とするシソーラス編集システムを開発した。

##### (2) シソーラス編集システムの機能

今回開発したシソーラス編集システムの機能は以下の通りである。

###### ①カテゴリー登録・編集

シソーラスのカテゴリーを登録・編集する機能で、管理者が利用できる。シソーラス全体の構造に影響があるので、最初に定義しておく必要がある。

###### ②シソーラス用語検索

登録されている用語を検索する。用語が未登録の場合は、シソーラス編集の新規編集画面に移動する。既出の場合は、用語選択後シソーラス用語編集に移動する。

###### ③シソーラス用語編集

用語の登録、削除などの編集が行える。用語の登録では、用語、よみ、カテゴリー、レベル（索引語、索引語候補、UF、UF候補、削除候補）、スコア

## 田中・加藤・安達・江口・森：女性情報シソーラスと参照機能を組み込んだデータベース検索システムの開発

シソーラス編集

用語

よみ

カテゴリ (0つまで選択可能)

<input type="checkbox"/> 01 思想・理論・運動	<input type="checkbox"/> 02 歴史・民俗・宗教	<input checked="" type="checkbox"/> 03 教育・研究
<input type="checkbox"/> 04 性・心・からだ・健康	<input type="checkbox"/> 05 政治・政策・法律	<input type="checkbox"/> 06 社会
<input type="checkbox"/> 07 労働・社会保障	<input type="checkbox"/> 08 経済	<input type="checkbox"/> 09 世帯・家族
<input type="checkbox"/> 10 暮らし・環境	<input type="checkbox"/> 11 科学・技術	<input checked="" type="checkbox"/> 12 ことば・情報・メディア
<input type="checkbox"/> 13 文化・芸術・スポーツ	<input type="checkbox"/> 14 一般	

レベル

<input checked="" type="checkbox"/> 索引語	<input type="checkbox"/> UF(～の代りに用いよ)
<input type="checkbox"/> 索引語候補	<input type="checkbox"/> UF候補
	<input type="checkbox"/> 削除候補

SN(スコープノート)

関連用語

図1 シソーラス編集システム 用語編集画面

プノート、関連用語 (BT, NT, RT, USE, UF), コメント (編集者相互の検討点などのメモ) が編集可能である。図1に画面例を示す。

## ④シソーラス用語表示

各用語の階層・関連を表示する機能で、簡易表示と詳細表示がある。図2に画面例を示す。

## (3) シソーラス編集システムによる編集作業

今回開発を行ったシソーラスの調査研究委員、編集メンバーは、それぞれ遠隔地に散在している。本編集システムをインターネット・Web経由で利用できる(認証は必要)ようにしたことで、遠隔地のメンバー同士でも作業を行うことができ、編集を協同作業へと組織化することが可能となった。これにより、時代の変化に柔軟に対応するシソーラスの管理・提供が実現できる。

実際の作業ではメーリングリストも併用し、編集作業でのルール、取り決め、カテゴリの分担、メンバーの役割を整理してから、作業にあたった。シソーラ

ス編集システムに対するメンバーの評価は、操作性の面などは好評で、編集作業の効率化を図ることができたと考えられる。

## 5. シソーラスのデータベース化と既存システムとの連携

シソーラス編集システムで編集される用語は、よみ、カテゴリ、レベル、スコープノート、関連用語等の属性を保持しており、シソーラス・データベースとして構築可能である。加納等(1983)は、索引語関連の情報を辞書データベースとして構築し、シソーラスの作成・処理の基礎資料として活用しており、辞書データベースの教育情報データベースの一部として機能するように設計されている<sup>[10][11]</sup>。

本システムでは、これをシソーラス・データベースとしてシソーラス構築の際に必要な属性を登録可能とするとともに、前述のような編集システムによりシソーラス・データベースの登録内容の管理を可能とした。





## 田中・加藤・安達・江口・森：女性情報シソーラスと参照機能を組み込んだデータベース検索システムの開発

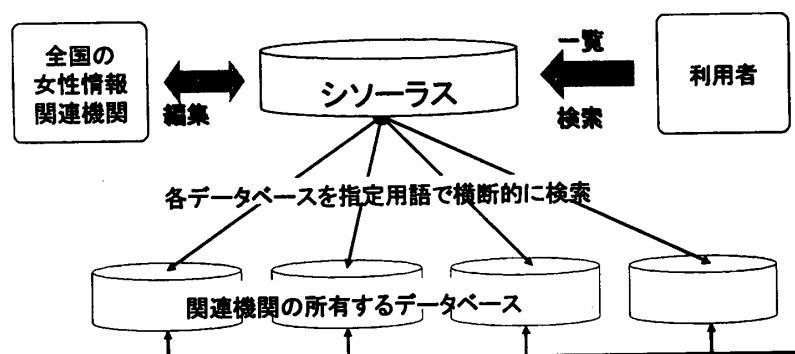


図4 シソーラス利用による関係機関の連携

的に検索可能となる。シソーラスを参照検索し関連用語等で各システムに対して同時に検索要求を出し、結果を整合して表示することで横断検索を実現可能となり、女性関連情報のポータル機能の充実を図ることができる。

そこで今回、会館の所有する既存の女性関連データベースに対するシソーラス参照検索機能を整備し実用可能とした。シソーラス参照検索の例を図3に示す。

検索条件入力において、シソーラス展開を指示することで、関連用語を一覧し目的の用語をチェックして検索可能とした。選択された用語間ではOR検索とした。

さらに、会館内の複数のデータベース検索システムにおいて、シソーラスの同義語を使用した検索機能を開発しており、会館以外の関連施設のデータベースへの検索機能についても開発をすすめている。

## 6. シソーラスの共同利用による機関連携の今後

データベースと連携したシソーラス参照機能は、会館のみにとどまらず全国の関連データベースを横断的に検索するための総合的なシステム構築をも実現する可能性を有している。既存のデータベースシステムからシソーラス参照機能を分離させたことで全国の関連機関の提供するデータベースとの連携をインターネット経由で実現可能となる。

シソーラス編集システムを併せて活用することで全国に点在する女性情報関連のデータベースへのアクセスを容易にするとともに、組織間の業務的な連携をも強化し、各機関の特色を活かしながら一体として活動を展開するための基盤となりうるものと位置づけることができる。

もとより情報通信ネットワークは、個人の情報へのアクセスを容易にするとともに、情報共有により組織間の連携を強化し、新たな連携体制を構築するためにも機能しはじめている。今回の開発システムは、連携システム構築の基礎的機能を提供するものであり、今後の具体的な相互連携の開発が課題となると考える。

## 引用・参考文献

- [1] Edited by Mary Ellen S. Capek, A Women's the-saurus : an index of language used to describe and locate information by and about women, Harper & Row, c1987
- [2] Compiled by the Canadian Women's Indexing Group (CWIG), The Canadian feminist thesaurus, OISE Press, 1990
- [3] 国立婦人教育会館編, 婦人教育シソーラス (昭和61年度版), 国立婦人教育会館, 1987
- [4] 国立婦人教育会館編, 婦人教育シソーラス (第2版), 国立婦人教育会館, 1990

- [5] Editors, Zurniaty Nasrul...[et al.], Women in development thesaurus, Clearinghouse for Information on Women in Development, Centre for Scientific Documentation and Information, Indonesian Institute of Sciences in cooperation with Unicef, 1991
- [6] Gusta Drenthe, Maria Van der Sommen, Vrouwenthesaurus : lijst van gecontroleerde termen voor het ontsluiten van informatie over de positie van vrouwen en vrouwestudies, Internationaal Informatiecentrum en Archief voor de Vrouwenbeweging (IIAV), 1992
- [7] ARROW Thesaurus, ARROW, 1997
- [8] European women's thesaurus : list of controlled terms for indexing information on the position of women and women's studies, International Information Centre and Archives for the Women's Movement (IIAV), 1998
- [9] The Isis Book of Descriptors, Isis International, 2000
- [10] 加納豊子, 後藤忠彦, 石原正也, 深谷哲 (1983), 教育情報データベースのための辞書の構成, 岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告 Vol.3, No.2, p.7-13
- [11] 加納豊子, 丹羽恵美子, 後藤忠彦, 安藤一郎 (1983), 辞書データベースを用いた日本語シソーラスの構造表示処理, 岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告 Vol.3, No.2, p.24-28
- [12] 西堀わか子 (1989), 婦人教育シソーラスの開発, 婦人教育情報 19, p.25-33
- [13] 西堀わか子 (1990), 女性分野のシソーラス, びぶろす 41-1, p.9-18
- [14] 国立オリンピック記念青少年総合センター編, 青少年教育シソーラス (1993年版), 国立オリンピック記念青少年総合センター, 1993
- [15] 松本幸花, 友政真知子 (1999), アジア女性のオンライン・ネットワーク: AWORC (アジア女性情報交流), 女たちの21世紀 20, p.21-23
- [16] 尼川洋子 (1999), 活動情報 1: 女性情報とインターネットの活用: 「世界女性情報会議」参加レポート, 女性教養 565, p.8-9
- [17] 田中和子 (2001), 海外女性情報: オランダIIAV(国際女性運動アーカイヴ情報センター)とその活動について, WINET情報 No.8, p.15-16
- [18] 加藤直樹 (2002), 「女性情報シソーラス」公開にあたって: シソーラスの共有とデータベース連携, WINET情報 No.9, p.15-16